定着巡り議論

会

「可能」

=神戸市東灘区岡本8

多文化共生や留学生の定着に向けた課題を探る「KOBEで世界とつながるアクション公開検討会」が、甲南大学（神戸市東灘区岡本8）で開かれた。群馬大の結城恵教授が登壇し、「地方だからこそ高度外国人人材の定着は可能」と強調した。

（名倉あかり）

甲南大と神戸国際コミュニティセンター（同市長田区）の包括連携協定締結を記念して開催。留学生や大学関係者ら約180人が来場した。

はじめに、結城教授が基調講演。日本人向けに実施したアンケートで「外国人と積極的に交流するほうがよい」と考える人は2006年度で9・8%だったのに対し、20年度は11・5%と微増にとどまったという。「住民が入れ替わる中で、一部の地域だけ啓発しても駄目。大学は多文化共生社会の構築に貢献する人材を育成するべき」と指摘した。

後半は神戸市外国語大や神戸常盤大の代表者ら7人が留学生の定着などについて議論。「今後は留学生への生活、言語、健康支援など、各大学の強みを持ち寄って協力できたら」「定住にはまず日本企業のグローバル化が必要」といった声が上がり、結城教授は「人と人、大学と大学がつながり、地域が活性化していく」とまとめた。

海を守る

第5管区海上保安本部

0年5月から運用が始まり、これまでの通報総数は全国で1336万5314件（10月末時点）に上ります。

118番を受けるのは運用司令センターで、海上保安庁と全国11カ所の管区海上保安本部にあります。5管（神戸市）の運用司令センターでは、兵庫（瀬戸内側）、大阪、滋賀、奈良、和歌山、徳島、高知の各府県を管轄しています。

運用司令センターでは、当直勤務の職員が交代で食事や仮眠をとりながら、24時間対応しています。

118番通報に対
運用司令センタ
用官（海上保安
トより）

勤務の午前10時から翌朝の10時15分までは職場の外に出ることができないため、3食を持ち込みます。カプセル型のベッドで仮眠しますが、事件事故が起きれば総員で対応しています。

私は4月に運用官となりました。最初は緊迫感のある現場の音、通報者からの助けを求める声に、緊張と気持ちの高ぶりで受話器を持つ手は震えていました。

慌てている通報者に対して「落ち着いてください」という声かけはほとんど効果がありません。自分自身が落ち着いて話し、相手にも落ち着いてもらうことを心がけに関する通報はわずかで、99%は間違いやいたずらなどの無効通報です。消費者ホットライン「188番」と間違われることも少なくありません。海上保安庁では1月18日を「118番の日」に制定し、知名度アップを図っています。

間違いやいたずらに注意してもらうと同時に、海の事件事故の場合にはためらわず通報してください。

ハワイのホスピス紹介

神戸のボランティア団体が講演

「患者の願いを尊重」

神戸

苦痛を抱える末期がん患者らの心のケアに務める「ホスピス」などについて、米国ハワイでの取り組みを紹介する講演会が、神戸市内であった。ホスピスボランティア団体「神戸つむぎの会」のメンバーらが、患者の状態に合わせたケアや、それぞれが望むサポートの重要性を報告した。

ハワイのホスピスでの体験を報告する松井由子さん＝神戸市中央区波止場町、ホテルオークラ神戸

神戸東ロータリークラブの例会の一環。同クラブの会員で、昨年4月に肺がんなどのため45歳で亡くなった緩和ケア医の関本剛さんの遺志をつなごうと企画した。今年9月に同会の松井由子代表(63)、山口妙子副代表(62)らをハワイに派遣。現地の団体との意見交換や施設の見学、実習などを行った。

松井代表は、現地の安楽死の現状を説明。希望する患者が処方薬を自ら服薬する仕組みだが、自然死を迎える人が多いという。「自分自身で区切りを付けられる安心感につながっている。日本では周囲の意見に流される風土があり、あらゆる場面で個人を尊重できているか考える必要がある」とした。

山口副代表は「死を願う患者の言葉から逃げずに、そのまま受け入れることが重要」と教わったことに触れ、「日本とは異なりその人なりの時間が流れている空間だった。何かをしてあげるのではなく、ただそばにいることも大切」と話した。

（門田晋一）